

令和3年度 県民の環境活動支援事業

ちば里山カレッジ「拡げよう・つなげよう里山活動」実施報告書(4)

第4回「森林被害にどう立ち向かうか」

特定非営利活動法人ちば里山センター

題名	ちば里山カレッジ「拡げよう・つなげよう里山活動」 第4回「森林被害にどう立ち向かうか」 講義：「木を枯らす虫の話」 ～カシノナガキクイムシを中心に～ 講師：森林研究所 福原 一成 (昼食) 実習「森林研究所構内の森から学ぶ」 ～これからの森づくりのヒント～ 講師：森林研究所 福島 成樹
日時	令和3年9月26日(日) 10:00～16:00
会場	千葉県農林総合研究センター森林研究所講堂・構内
出席者	受講生15名(10市町)・講師3名、スタッフ2名
内容	10:15～11:10 講義：「木を枯らす虫の話」 ～カシノナガキクイムシを中心に～ 講師：森林研究所 福原 一成 12:00～12:45 昼食 12:45～15:00 実習：「森林研究所構内の森から学ぶ」 ～これからの森づくりのヒント～ 講師：森林研究所 福島 成樹
	<p>里山カレッジ第4回は千葉県農林総合研究センター森林研究所(山武市)の会議室で講義、構内でスギ、ヒノキ研究、スギ生育実験現場視察などを行った。</p> <p>福原一成講師は、近年千葉県内で見られるようになった大規模なナラ枯れ被害と、近県で広がる傾向のウメやサクラなどに集中的にみられるクビアカツヤカミキリの被害について、発生状況、標本など示しながら防除法について触れ、注意喚起を呼び掛けた。</p> <p>カシノナガキクイムシがナラ菌を媒介することでブナ科樹木(コナラ属、シイ属、マテバシイ属)が枯死する現象は「ブナ科樹木萎凋病」として整理されている。</p> <p>カシノナガキクイムシは日本国内に生息し、エネルギー革命がおこる以前は、コナラ、クヌギなど薪炭材として使われ、大径木に成長する樹木は少なかった。</p> <p>福原講師はカシノナガキクイムシが急に発生した2017年は年内の降水量が平年の半分程度だったという気象現象が関係している可能性を指摘した。</p> <p>県内では、2017年に県立中央博物館、地元の東京大学千葉演習林と共同で調査を開始し、2018年からは集合フェロモンを用いたカシノナガキクイムシの分布調査を実施した。</p>

簡易な防除法としてラップを樹幹に巻き付け、クリアファイル利用の捕獲トラップでブロックするほか、くん蒸薬剤を注入する方法があるが、カシノナガキクイムシの駆除は難しく、薬剤の注入でナラ菌の増殖を抑えるなどの方法を示した。

次に、クビアカツヤカミキリによる樹木被害を取り上げた。クビアカツヤカミキリは特定外来種に指定され、海外からの移入が指摘されている。その被害については、樹幹に産卵した卵が幼虫に孵り、通水阻害を起こし枯死する現象と説明。

2012年に愛知県、埼玉、群馬、東京、大阪、徳島、栃木、和歌山、その後2019年には三重、奈良で発見された。千葉県内では未発見だが千葉県が注意喚起している。

防除対策は樹幹にネットを巻く物理的対策と薬剤の注入による薬剤防除がある。また、クラウドファンディングで研究資金を募り、捕獲した成虫の買取を行う県などがある。

森林研究所ではカシノナガキクイムシの被害、クビアカツヤカミキリを発見した場合は、知らせしてほしいと呼びかけている。

受講生からナラ枯れ対策としての樹幹へのラップ巻きの時期、カシノナガキクイムシのオス、メスの特性などの質問があり、関心の高さを窺わせた。

午後は福島成樹講師による森林研究所構内の視察見学を行った。サンプスギは建築材として有用な材だったが、挿し木のクローンで育成させるため、非赤枯性溝腐病に弱いという特徴を持っている。

構内ではサンプスギ2年目、3年目の成長研究、挿し木の研究施設、樹冠以下数メートルが台風による強風で欠けたセンベルセコイヤ、同じくスギの折損木、カシノナガキクイムシに穿入されたコナラ、スギ、ヒノキの採種園を見学した。

添付資料（写真）



ナラ枯れについて講義



福原一成講師



カシノナガキクイムシの標本



研究所前で集合写真



福島講師による構内見学・スギの成長研究圃場



挿し木スギの圃場



品種による葉の違いが分かるスギ



穿入マツ



ヒノキ雄花が出る実験



台風被害で中折れしたスギ



カシノナガキクイムシ穿入のコナラ



スギのポット苗育成場